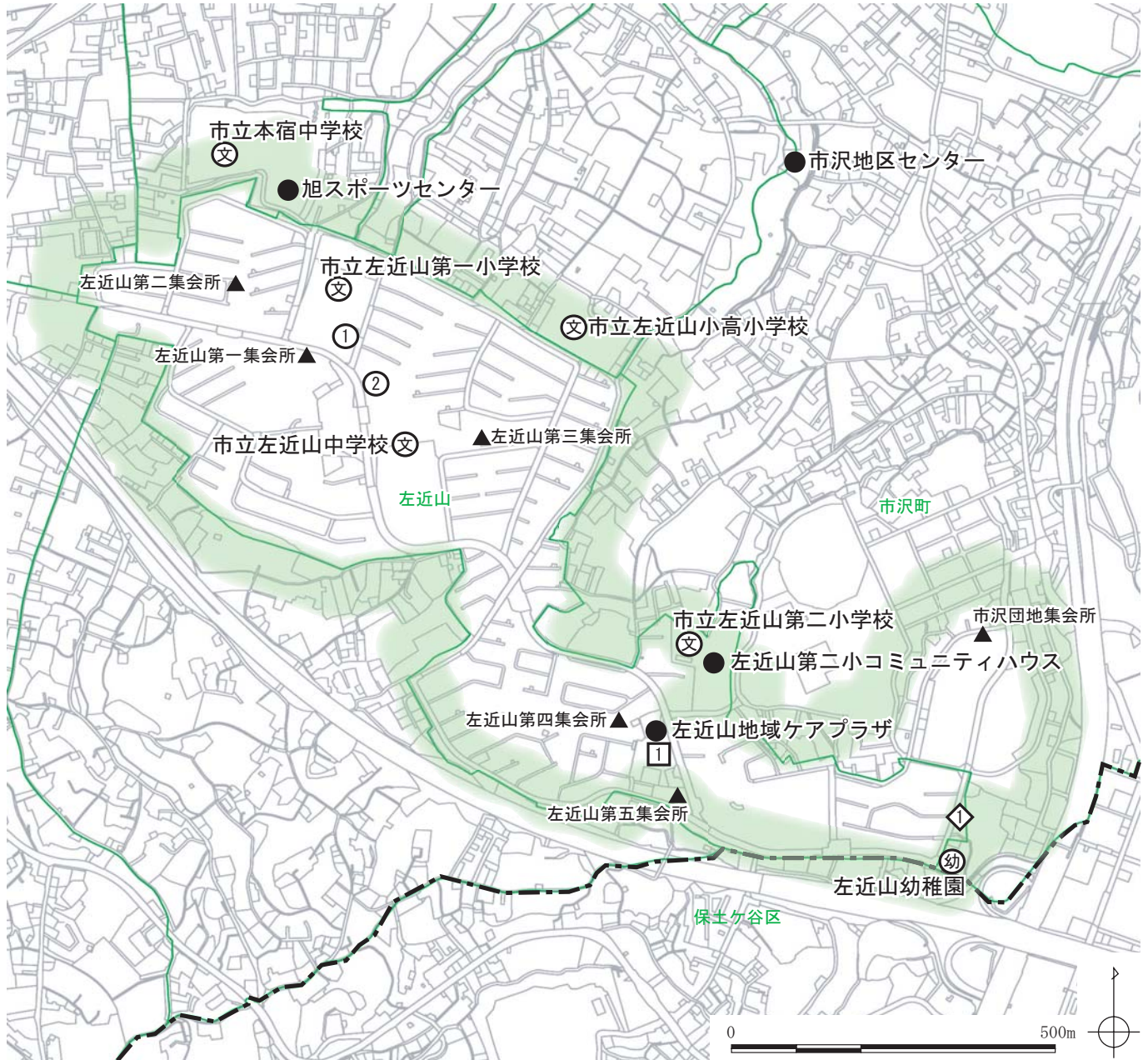


左近山地区



左近山地区は、保土ヶ谷バイパス東側の丘陵部に開けた集合住宅地（独立行政法人、都市再生機構と横浜市住宅供給公社の開発による中低層団地）です。環状2号線の開通により東戸塚方面へのアクセスが向上しました。

地区住民は60歳代から70歳代前半にかけて団地が開発された初期に入居した人たちが中心で、高齢化が進んでいます。



実際の地区範囲は、町・丁目単位とは限らず地図上に正確に表すことは困難なため、およその範囲で表現しています。地域の状況を把握するための参考データとしてお取り扱い下さい。

背景図：横浜市都市計画基礎調査

地区担当：左近山地域ケアプラザ

地域の福祉保健施設

子ども

保育園

- ① 市立左近山保育園

放課後児童クラブ（学童保育）

- ② 左近山学童クラブ・スマイル

障害

障害福祉サービス事業所（日中活動）

- ① 第三空とぶくじら社

高齢

介護老人保健施設

- ◇ ハートケア左近山

【地区周辺の地形】

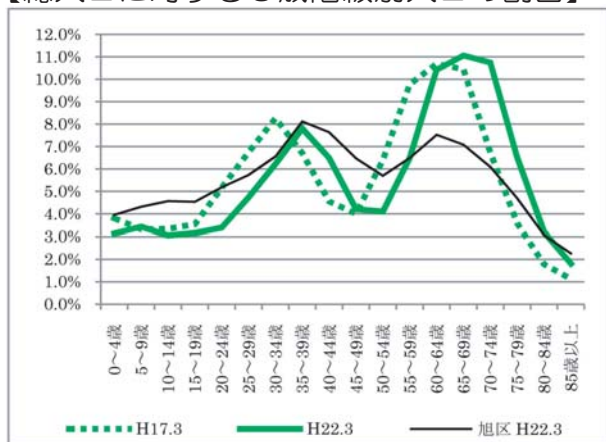


数値地図5mメッシュ (旭区) 国土地理院

地区データに見る特徴

- ・陣ヶ下溪谷（保土ヶ谷区）の源流域でもある丘陵部分を中心に開発された左近山団地と市沢団地及び市沢団地住宅地区を中心にした地区です。
- ・この5年間では、総世帯数は横ばいですが、総人口は8.5%減少しています。
- ・人口構成別に見ると、年少人口は15.8%、生産年齢人口は20.7%の大幅減少となっています。高齢者人口は749人(28.9%)増加し、その結果、高齢化率は33.4%と区内でも最も高い地区の一つとなっています。
- ・一方年少人口比率は4.6%と区内でも最も低い地区の一つとなっています。

【総人口に対する5歳階級別人口の割合】



【世帯数及び人口】

	H17.3 (総数比)	H22.3 (総数比)	H17-22 増減比率
総世帯数	4,781 世帯	4,799 世帯	+0.4%
総人口	10,936 人	10,009 人	-8.5%
0~14歳 (内、0~6歳)	1,144 人 (10.5%) 569 人 (5.2%)	963 人 (9.6%) 458 人 (4.6%)	-15.8% -19.5%
15~64歳	7,203 人 (65.9%)	5,708 人 (57.0%)	-20.8%
65歳以上	2,589 人 (23.7%)	3,338 人 (33.4%)	+28.9%

住民基本台帳及び外国人登録人口合計 (左近山)

※人口データは町丁目単位までしか集計されていないため、一つの町丁目が複数の地区にまたがっている場合は、所属面積の大きい地区に含めて作成しています。そのため、グラフと表は左近山のみ数字となります。したがって、上記データは地域の概況を把握するための参考としてお取り扱い下さい。

左近山地区の活動情報

(平成22年9月末現在)

地域サロン

「生き生きサロン」

毎月1回

場所：左近山団地第二集会所
(左近山団地二街区自治会)

地域の皆さんが気軽に集い、交流する場です。

地域サロン

「オープンカフェ」

毎月第2・4土曜日

場所：左近山団地第三集会所
(左近山小高団地自治会)

地域の皆さんが気軽に集い、交流する場です。

地域サロン

「みっかぼーず」

毎月第3日曜日

場所：左近山地域ケアプラザ

地域の皆さんが気軽に集い、交流する場です。

食事サービス

「左近山第一ほのぼの会」

毎月第3土曜日

場所：左近山中学校

高齢者等を対象に、会食会などを行っています。

食事サービス

「左近山第二ほのぼの会」

毎月第3土曜日

場所：左近山地域ケアプラザ

高齢者等を対象に、会食会などを行っています。

町ぐるみ健康づくり教室

「左近山地区町ぐるみ健康づくり教室」

年10回

場所：左近山団地第二集会所
健康体操などを通し健康づくりを行っています。

ボランティア

「左近山地区ケアシステム」

左近山地区社協がコーディネートする生活支援のボランティアシステムです。

ボランティア

「みどり友の会」

施設ボランティアを行っています。

「読み聞かせグループ ももいろタンポポ」
絵本の読み聞かせを行っています。

- ・地域には他にも様々な活動があります
- ・活動についてのお問合せは、左近山地域ケアプラザ 旭区社会福祉協議会 へお気軽にどうぞ。

これまでの活動の目標

活気あふれるまちをめざす

～グラウンドゴルフなどを通じて多世代交流を図る～

活動の振り返り

グラウンドゴルフ

多世代交流を深める目的でグラウンドゴルフを開催しました。

老人会、小学校、地域ケアプラザ、障がい施設に通う方から参加者を募り、平成18年3月から年1回実施しています。

活動は、小学生と高齢者、障がい者の交流の場となり、相互理解が深まりました。また、大勢の参加者が一緒にイベントを楽しむことで地域活動の維持・活性化につながっています。



ウォーキング

健康づくり、ひきこもり防止及び防犯を目的として、平成18年度にウォーキングマップ「お散歩マップ」を作成しました。

試歩行を経て平成20年度に実施したウォーキングでは2箇所のスタート地点から1箇所のゴールを目指して約100名が参加しました。

地域環境について理解を深め、地域で健康づくりを呼びかけるきっかけとして発展しています。

団地祭での福祉相談コーナー

平成18年度から年1回行われる団地祭で福祉相談コーナーを設置し、地域の方の健康相談などにあたるるとともに、支えあい活動の紹介を行っています。

利用者が気軽に立ち寄り、健康や福祉に関する相談ができる場として定着するとともに、支えあい活動をはじめ、地域の福祉保健活動情報を、幅広い人に発信しています。



計画策定の経緯

＊地域支えあいネットワーク連絡会議の開催＊

- 平成22年 3月24日 支えあいネットワーク中心に検討を進めることを決定。
- 平成22年 7月 1日 第1期地域福祉保健計画の振り返り
- 平成22年 9月 2日 第2期計画の素案の検討
- 平成22年10月22日 第2期計画案の策定



(検討会の様子)

＊検討メンバー＊ 各団体代表者により検討が行われました。

各自治会（左近山連合自治会・1街区自治会・2街区自治会・小高団地自治会・あさひ自治会・789街区自治会・市沢団地自治会・市沢団地住宅地区自治会）、左近山地区社会福祉協議会、左近山老人クラブ連合会、民生委員児童委員協議会、体育指導委員、青少年指導員、保健活動推進員、ボランティア団体（左近山第一ほのぼの会・左近山第二ほのぼの会）、学校関係代表、居宅介護支援事業者（左近山訪問看護ステーション）、障害者施設（空とぶくじら社・横浜療育医療センター）、医療機関（日向台病院）、一般施設（(財)横浜市体育協会）

見えてきた課題と取り組み

継続的に取り組む課題等

- ① 活気あふれるまち
 - ・地域活動の維持・活性化
- ② 誰もが気持ちよく暮らせる環境の維持
 - ・地域の安全性の確保（不審者など）
- ③ 多様な人が安心して共に暮らせる関係
 - ・表に見えない「人」を支える（ひとり暮らし高齢者支援）
 - ・地域とのつながりが希薄な若者

重点とする課題

- ボランティアの担い手の高齢、固定化
 - 活動参加者の固定化
- 『地域活動に対して無関心または、積極的に参加できない層』への働きかけや支援を盛り込む必要がある。



(お散歩マップ(部分))

5年後に目指す目標

ボランティア・参加者等活動を担う人材の発掘、育成

1期のイベント活動を継続する中で、目的を付加させ、30代、40代の中間層の世代や10代の次世代の人が参加しやすいように、イベント内容の充実を図ります。

具体的な活動の取組例

- ・親子参加ウォーキングなどでイベントに慣れ親しみ、ボランティア活動等にも目を向けてもらう。